



朝日大学  
経営学部 ビジネス企画学科  
専任講師

横井 祐一氏

## 良識経営に根ざした

# コンプライアンス



企業活動において、急速に重要性が高まっているのがコンプライアンスです。

コンプライアンスとは、法律や規則などの基本的なルールや社会規範・企業モラルに従って活動を行うことをさします。

しかし、あらゆるルールを完全に守ることは、現実的には不可能です。日本には、法令が七千本以上あります。法律の専門家でも、すべての法令を完全に理解し、あらゆる場面で正確に解釈・適用することは無理です。もちろん、法令知識

を深めることは望ましいことですが、その限界を知ることでも大切です。中途半端な知識と自信が、最も危険なのです。

まず、自社の基幹事業と直接関係する法令については、十分調査し、確実に遵守する取り組みが必要です。社会的に関心が高い法令についても警戒すべきでしょう。

一方、他の法令について細かなルール違反を恐れ、禁止項目を増やすことは社員の行動を縛ることもとなり、会社の活力を削いでしまいます。



### 常識から「良識」の獲得へ

「法律は常識だ」と言う人がいます。法律は社会をよくするために定められるものですから、個々の法律を知らなくても、善悪を慎重に判断すれば、自ずと答えが導かれると考えがちです。しかし、注意しなければならぬのは、「常識」は一つではないということです。「会社の常識」は「社会の非常識」ということも、決して珍しくありません。

自社に都合の良い常識を捨て、関係者や地域社会に良い価値を提供するために知恵を絞り、行動の規準を高める努力をすることを、私は「良識」と呼んでいます。会社独自の優れた規準を実践することは、他社との差別化と信頼の強化を導きます。この「良識」を獲得した会社は、コンプライアンスよりも「戦略」に力を注ぐことができます。



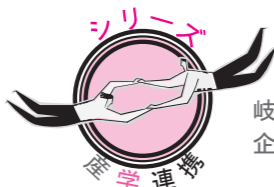
### 隠べいが命取りに

万が一、会社がルール違反に気づいた場合、事実の隠べいや情報を改ざんすることは決して得にはなりません。むしろ、社会から強い非難を受けることになりまます。これは、社会を裏切ることの意味からです。

素直に過ちを受けとめ、正直に対応すること。これは単純に思われますが、実は非常に難しい行動であることは間違いないです。大事なことは、その後に予想されるあらゆる問題に、対応する「策」を用意しておくことです。この態勢が整っていれば、柔軟かつ効果の高いコンプライアンスを確立することができます。

ルールにがんじがらめになるのではなく、会社の活力を高める良識経営の上にとったコンプライアンス作りを目指してください。

岐阜市近郊の研究者を中心に連携できる内容を紹介し、企業との橋渡しを目指しています。



### 相談できる内容

- ・ 組織を成長させるための戦略立案
- ・ 新規事業アイデアの創出
- ・ リスクマネジメント全般
- ・ 不測事態発生時の対応
- ・ コンプライアンスの体制構築、事案調査

### 研究内容・専門分野

- ・ 経営戦略
- ・ 危機管理・リスクマネジメント
- ・ 新規事業開発

### 連携実績

- ・ 営団地下鉄民営化に向けた意識改革プロジェクト
- ・ 名鉄グループ企業内起業塾の企画及び運営
- ・ 大手アパレル企業のリスクマネジメント体制の構築支援

### 研究手法

企業での実践の経験によってたどり着いた知見を体系化、構造化することに取り組んでいます。受け売りの理論ではなく、徹底的に現実社会と向き合っ、一つひとつ丁寧に答えを出していくことが私の手法です。

### 取材

岐阜市役所商工観光部  
産業振興課 新産業G  
TEL : 058-265-4141 (代)  
内線 6253



経営学部 ビジネス企画学科  
TEL : 058-329-1369 (直通) E-mail : yokoi@alice.asahi-u.ac.jp